

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第 12 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 2 1 年 9 月 8 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## － 第 12 回 「旧川復元小委員会」 －

日時：平成 21 年 9 月 8 日（火） 13：30～15：30

場所：釧路市観光国際交流センター 2F 研修室 1・2・3

### 議 事 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

- 1) 平成 21 年度の実施予定
- 2) 旧川河道切替え部の河岸保護について
- 3) 施工手順と配慮事項について
- 4) 平成 22 年度の予定

#### 3. その他

#### 4. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会  
旧川復元小委員会 委員名簿

計：31名

■個人(13名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
2	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
3	神田 房行	北海道教育大学 教授
4	櫻井 一隆	
5	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
6	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
7	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
8	早川 博	北見工業大学 社会環境工学科
9	針生 勤	釧路市立博物館 学芸主幹
10	日野 貴	
※ 11	平井 康幸	
12	松本 文雄	
13	三好 英雄	(株)不二木材 代表取締役

■団体(12名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
2	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
3	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 鈴木 久枝
4	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
5	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
6	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
7	下久著呂地区農業用排水維持管理組合	組合長 八木澤 栄蔵
8	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
9	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 金子 正美
10	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道
11	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
12	標茶西地区農地水保全隊	組合長 佐久間 三男

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一

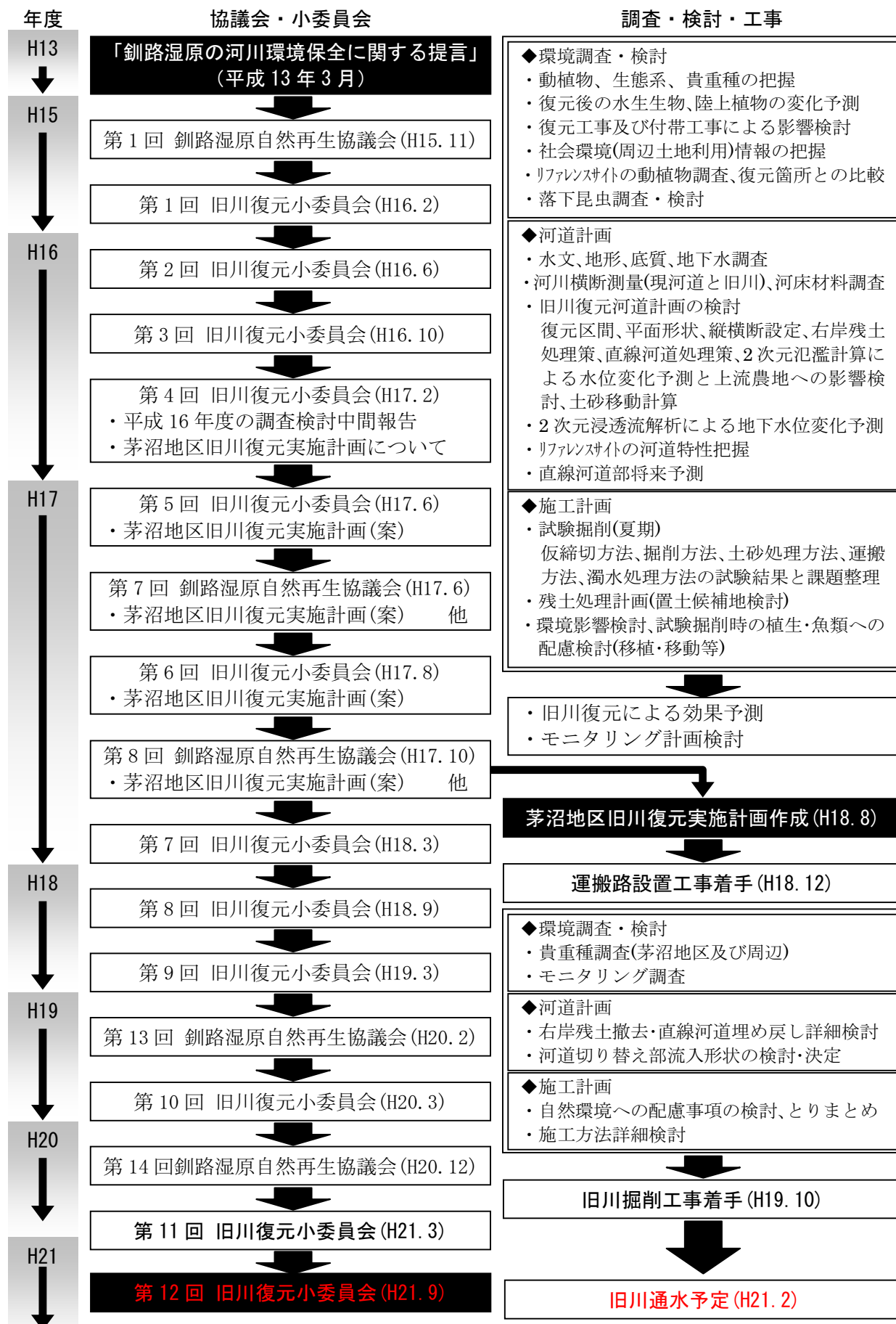
■関係行政機関(3機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 安田 修
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 出江 俊夫
3	標茶町	町長 池田 裕二

※第4期(前期)新規構成員

－ 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画 －



項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成20年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生や教職員と協働し、残土撤去箇所のヨシの移植等を行った。</li> <li>・ 残土撤去を行うと裸地になり、外来種が侵入する恐れがあったが、イグサの仲間が繁茂した。徐々にヨシ原へ遷移していくことが期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後もモニタリングを継続し、植生遷移の状況を把握する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧草を植えているが、イグサはどこでも生えてきて、牧草が負けてしまう状況である。ヨシも負けてしまうのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヨシの根を移植した場所にはイグサはあまり生えず、ヨシの移植を行わなかった場所がイグサで覆われた。</li> <li>・ 旧川復元を行って氾濫頻度が増加し、水が入ってくればヨシが優占するようになると考えている。</li> </ul>	
平成21年度の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水衝部となる箇所の対策を検討しているという説明であったが、水衝部で本川の水が溢れる前提で検討を行っているのか。あるいは、溢れさせないようにするための対策なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象洪水にもよるが、一部溢れてもやむを得ないという考えで対策の検討を行っている。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湿原植生の再生という観点では、むしろ氾濫した方が良い。</li> </ul>	

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成 21 年度の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直線河道の上流部と下流部を締め切るタイミングをどのようにするのか。</li> <li>・ 直線河道を上下流締め切ると、その中に魚が残ってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧川河道へ通水した段階で直線河道の締め切りを行う。一時的に、旧川と直線河道の両方へ流れることになる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚が閉じ込められないように、そのタイミングを針生委員に相談して検討した方が良いのではないか。</li> <li>・ 一時的に 2way になる。この 2way の期間をうまく利用し、魚を逃がしつつ 1way に移行することができると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川工学的に安全に流下させる方法、動植物を保全する方法の詳細な検討を行い、21 年度早い時期に検討し、先生方のご意見を踏まえて対処していきたいと考えている。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧川通水後の本川の扱いが分からない。絶えずオーバーフローすることが想定されるのであれば、オーバーフローした段階で魚は直線河道部に入る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水位の上昇を図るため、本川の直線河道部については埋め戻す計画としている。</li> <li>・ 直線部を埋め戻す前に、そこにいる動植物は全て移す計画である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度旧川へ通水する予定とのことであるが、その時期はいつごろか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通水の時期は、冬の水が少ない時期を予定している。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通水する際は、水の勢いで河床や河岸が削られ、濁水が発生する恐れがある。水質のモニタリングを行いながら進めていくことが必要だと思う。</li> <li>・ 水質について問題が確認された場合は改善する必要がある。</li> <li>・ 旧川通水は大きなイベントになるので、万全の体制をとってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通水初期に濁水が発生する恐れがあるので、その点について先生方のご意見を伺いながら具体的な対策について検討していきたいと考えている。</li> </ul>	

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成 21 年度の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線河道に残された魚のうち、ウグイなどの回遊魚は流れのない直線河道の中で生きていくができるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマメなどのサケ科魚類は、酸素不足になると問題である。水の深さが十分あれば生き残る可能性はあるが、完全に締め切った状態で酸素不足になると、サケ科魚類はあぶない。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に上流側の締め切りを行い、下流側を空けている状態で、網などを用いて上流側から下流側へ移動を促せば良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 月に通水すると想定すると、春から魚類等の移動を開始するので、直線河道に閉じ込められている時期はごくわずかな期間になると考えている。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年度の締め切り作業は上流部のみで、下流部については平成 22 年度に実施すると考えて良いのか。</li> <li>下流部の締め切りは、平成 21 年から 2 ヶ年にわたって行うということか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流側は完全に締め切るが、下流側の締め切りは部分的に行うので、魚類等はそこから直線河道の下流側へ移動することができる。</li> <li>下流側の締め切りは、サケなどが埋め戻す予定の直線河道へ迷い込むことを防止するために行う。ただし、完全に締め切るわけではなく、魚類等が移動可能な河道を残すことを検討している。</li> </ul>	

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成21年度の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針生委員など、魚類の専門家の意見を聴きながら、具体的な対策について検討を行っていくことになると思う。</li> <li>・ 締め切り工事をしっかり行い、水衝部は強固なものにする必要があると思う。</li> <li>・ 巨大なコンクリート構造物をつくれば壊れにくいと思うが、自然の状態に戻すための取組みと逆行することになるので、その点を考慮して検討を行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点では、河川工学的な検討までは行っていない。先生方に相談しながら流水力など工学的な検討を行い、湿原景観にも配慮した工法を選定したいと考えている。</li> <li>・ 本事業は、単に旧川へ通水して水の流れを変えることを目的とした事業ではない。湿原保全という最終目標に向かって取り組んでいる。</li> <li>・ 締め切り工法についても、河川工学的な検証を行った上で、最終目標の達成に適した工法を選定していきたいと考えている。</li> <li>・ 最終目標達成までのスケジュール等を含め、今後も小委員会に諮り、ご意見を踏まえて取り組んでいく</li> </ul>	



第 11 回旧川復元小委員会での意見をとりまとめ、以下に示す。

### ①平成 20 年度の実施状況

#### ⇒意見

- ・ 残土撤去を行うと裸地になり、外来種が侵入する恐れがあったが、イグサの仲間が繁茂した。徐々にヨシ原へ遷移していくことが期待される。

### ②平成 21 年度の実施予定

#### ⇒意見

- ・ 魚が閉じ込められないように、そのタイミングを針生委員に相談して検討した方が良いのではないかと。
- ・ 一時的に 2way になる。この 2way の期間をうまく利用し、魚を逃がしつつ 1way に移行することができると思う。
- ・ 最初に上流側の締め切りを行い、下流側を空けている状態で、網などを用いて上流側から下流側へ移動を促せば良いと思う。

#### ⇒意見

- ・ 通水する際は、水の勢いで河床や河岸が削られ、濁水が発生する恐れがある。水質のモニタリングを行いながら進めていくことが必要だと思う。

#### ⇒意見

- ・ 締め切り工事をしっかり行い、水衝部は強固なものにする必要があると思う。巨大なコンクリート構造物をつくれれば壊れにくいと思うが、自然の状態に戻すための取組みと逆行することになるので、その点を考慮して検討を行ってほしい。

# 第 12 回 旧川復元小委員会

## 資料目次

	頁
1. 平成 21 年度の実施予定	1
1-1. 旧川復元の施工年次計画	2
1-2. 平成 21 年度の実施予定概要	3
2. 旧川河道切替え部の河岸保護について	4
2-1. 旧川河道切替え部の河岸保護について	5
2-2. 河岸保護工の検討	10
3. 施工手順と配慮事項について	14
3-1. 施工手順	15
3-2. 施工における配慮事項	16
4. 平成 22 年度の予定	21

# 第12回 旧川復元小委員会資料

1. 平成21年度の実施予定
  - 1-1. 旧川復元の施工年次計画
  - 1-2. 平成21年度の実施予定概要
2. 旧川河道切替え部の河岸保護について
  - 2-1. 旧川河道切替え部の河岸保護について
  - 2-2. 河岸保護工の検討
3. 施工手順と配慮事項について
  - 3-1. 施工手順
  - 3-2. 施工における配慮事項
4. 平成22年度の予定